

夜の森を滑空する動物、ムササビ

長谷川 裕子

冬は落葉広葉樹の葉が落ち、森に隙間が生まれ、遠くまで見通せるようになります。昼間はエナガやシジュウカラなどの鳥の移動がよく見えますが、夜にも見やすくなる動物がいます。それはムササビです。今日は、天覧山に棲む、ムササビの生態と探し方をお伝えします。



写真1 ムササビ 河合裕氏撮影



写真2 コナラの花の食べあと



写真3 巣穴から出たしっぽ

ムササビは、樹上に棲む夜行性のリスの仲間です(写真1)。ほぼ完全な植物食者で、季節によりメニューを変えながら、植物の冬芽や若葉、花、果実などを食べます。その移動方法が特徴的で、飛膜(皮膜ともいいます)を広げてグライダーのように滑空し、木から木へと飛び移っていきます。この構造の要は、前足手首の外側にある針状軟骨で、長さ約8cm、プラスチックの爪楊枝のような硬さを持つ骨です。普段は、腕の骨に沿って隠れていますが、滑空するとき90度まで展開し、ムササビの形は四角い座布団のようになります。長い尾も滑空するときのバランスとして機能します。ムササビは滑空することで、えさを探したり、縄張りを見回ったり、交尾の時期にオスがメスを追ったりして、樹上生活を送っています。

それでは、どうしたらムササビに会えるのでしょうか。夜の観察をお勧めしたいところですが、現在、天覧山では関係者以外の夜間(日の入りから日の出まで)の入山を禁止しています。そこで、痕跡とすみかである樹洞を探してみることで、ムササビに会える可能性は高くなります。

まず、痕跡ですが、ムササビが夜に食事をした木の下には食べあと(食痕)が点々と落ちていることがあります。例えば、冬芽を食べた痕跡は、その枝ごと落ちています。ムササビは冬芽を食べる時にまず枝をたぐり寄せてかじりとるので、食べ終わったらその場に枝をポイと捨てるからです。捨てられた枝は、切り口がななめなので、ムササビが食べたことを推察することができます。冬芽に限らず、イロハモミジの種やコナラの花(写真2)など食べる時も枝ごと落ちていることがあります。

次に、樹洞を探してみましょう。ムササビは、自ら巣穴を掘ることができないため、木の内部が腐ってできた穴やキツツキが掘った穴などを利用し、日中は寝ています。食べあとが落ちていた近くの木などに樹洞があると、ムササビが眠っているかもしれません。その体の一部が出ていたり、見えたりすることがあります(写真3)。

みなさんが天覧山周辺を歩かれたとき、ムササビに出会えるといいですね。当館では今年も飯能市の歴史や文化、自然の情報を発信していきます。本年もよろしくお願い申し上げます。

ます。

【参考文献】

参考文献(※印は飯能市立図書館に蔵書があります)

- (1)盛口満『森からの手紙—飯能博物誌』創元社 平成7(1995)年※
- (2)高尾ビジターセンター『季刊 高尾ビジターセンターニュースレター のぶすま』2009年夏号 Vol.19 平成21(2009)年
- (2)川道武男『ムササビ 空飛ぶ座ぶとん』築地書館 平成27(2015)年※